日刊 動労千葉

85. 2. 28

No. 1876

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一―八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二(22)七二〇七

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉砕！

「60・3」団交打ち切りを通告(2/26)、公労委へあっせん申請(2/28)

3・2に総結集し、三里塚―国鉄決戦の勝利もぎとれ！

動労千葉は安全輸送を無視し、恐るべき労働強化と人減らしを強行する「60・3」の撤回を求め、2・20～21第一波闘争に至る闘いを全力で取り組んできた。しかし、当局は、われわれの闘いに追い込まれつつ、2月26日には他労組との間で「大筋了解」を強行する動向に出てきた。動労千葉は団体交渉の打ち切りと、公労委にあっせん申請を行うことを通告した。

「60・3」強行を粉砕した第一波闘争

当局は昨年の11月15日、「60・3ダイ改」に関する労働条件の提案を行った。

提案の中で当局は、動乗勤制度の改悪をもって超過勤務を前提とした労働強化を強制し、膨大な要員を削減するすさまじい攻撃意図をむき出しにしている。これが提案通りに実施されたなら重大事故の発生は必至であり、大量の「過員」を生み出すことになるのだ。

動労千葉は「60・3」を10～15万人首切り―「分割・民営化」実現にむけた突破口の攻撃ととらえ、団体交渉を積みあげる中で当局を追及し、撤回を迫ってきた。

しかし当局は、「全社的問題＝本社の圧力」を唯一の回答に不誠実な対応に終始してきたばかりか、2月15日われわれの要求とはるかにかけ離れた「修正提案」を行う一方、「2月19日をもって『60・3ダイ改』の団体交渉を打ち切る」との通告を行ってきた。これに対し動労千葉は、あくまでも団体交渉による解決を要求するとともに、当局の強硬姿勢に抗議し、2月20、21日の2日間、非協力・安全確認行動の第一波闘争に決起し、敢然と闘いぬくことを通して、当初の「団交打ち切り！『60・3』強行」策動を粉砕した。

当事者能力を喪失した当局

動労千葉は「60・3」をめぐる総屈服状況のもと、実力闘争を背景とした2月18日から21日にわたる連日連夜の交渉の中で、「要員問題」「過員問題」「基地問題」を中心に解決を迫ってきた。

とりわけ、国労共闘をも追求し、共通の要求として、

① 動力車乗務員の殺人的労働強化を緩和するため「時間調整の非番日」を設定する。

② 過員問題について一定の協議ルールを確立する。

③ 仕業検討を行う。

の三点にしぼり、当局につきつけた。

しかし当局は、要求の内容に理解を示しながらも本社のしめつけの中で判断できず、非協力・安全確認行動は2日間の打ちぬきとなったのである。

当局が最低限の要求すら認めないとするならばわれわれは確認された方針に基づき「60・3」そのものを粉砕するまで闘いぬかなければならない。

われわれは誠意ある回答を求めて、今日まで団体交渉を継続してきた。にもかかわらず2月25日の団体交渉で回答の前進を求めた動労千葉に対し、強硬姿勢を変えないばかりか、他労組との間で片仕切りを行い、「60・3」強行の姿勢を露にしてきた。

従って動労千葉は、2月26日、11時、当局に対して団体交渉の打ち切りを通告するとともに、28日中にも公労委にあっせん申請を行う。

3・2～3・24の大結集を実現しよう

繰り返し明らかにしてきたように、「60・3」は大量首切りを許すかどうかをかけた決戦の場である。

ところが国鉄労働運動の現状は、当局の犬＝動労「本部」革マルは論外としても、全体として「60・3」との対決を回避し、闘いを後景化させたうえで妥結する動向にある。動労「本部」革マルは「60・3でこんなに便利になります」などと、**両手を上げて賛成**し、1月30日、動労高崎地本が早々と**片仕切りした**のを皮切りに、動労総体で「60・3」を推進し、国鉄労働者を資本・当局に売り渡す裏切りと公然と行っている。

動労千葉は、こうした否定的状況を打ち破り、国鉄労働者の総決起を実現するものとして第一波闘争に決起した。この闘いは全国の心ある国鉄労働者の共感と確かな手ごたえを獲得している。

さらに、3・2動労千葉総決起集会の圧倒的成功をかちとり、第二波闘争に決起し、3・24三里塚への三たびの5割動員貫徹を通して、動労千葉とともに闘う労働運動をつくりだし、「60・3」阻止闘争を勝利し、「過員」攻撃を粉砕していこう。

3・2 動労千葉総決起集会

十万人首切り合理化、国鉄分割・民営化反対、「60・3ダイ改」阻止

＊ 三月二日 午後五時半
＊ 千葉市中央公園（集会とデモ）

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！